

健康通信 しずおか

No.79

2020
5月24日

TRANSITION TO HEALTH (079)

“ 新型コロナウイルス感染 ⑤ ”

歴史に学ぶ

10分で解る “ インフルエンザワクチンの危険性・無効性 ” その2

はじめに

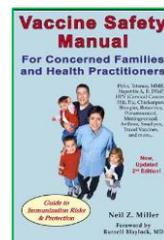
報道によると「**新型コロナ**」の拡散経路(右図)として、初め「**中国型**」が世界に拡散し、「**欧州型**」と「**米国型**」に変異、そしてさらに変異して**17種の亜型**に分かれたという。日本では、1月~2月に「**中国型**」が流入したが、“封じ込め”に成功し、3月以降は主に「**欧州型**」が流入し、全国に拡大したと分析していた。「**新型コロナワクチン**」の早期開発が望まれているが、流行株に一致した有効なワクチンを、果たして作ることが可能なのだろうか、疑問である。さて、前号に引き続き、インフルエンザワクチンにまつわる歴史を振り返ってみよう。



『ワークアップ! ぶらす』2020.5.23 日本テレビ系列

Vaccine Safety Manual (ワクチン・セイフティー・マニュアル) (改訂第2版・2012年)

この書籍は、アメリカ人医学研究ジャーナリストで自然健康擁護家のNeil Z. Miller氏が、過去40数年間のあらゆるワクチンに関する研究論文をまとめたものである。インフルエンザに関しては、WHO、CDC、FDA(米国食品医薬品局)等のデータを含む180にも及ぶ科学的根拠に基づいて書かれている。

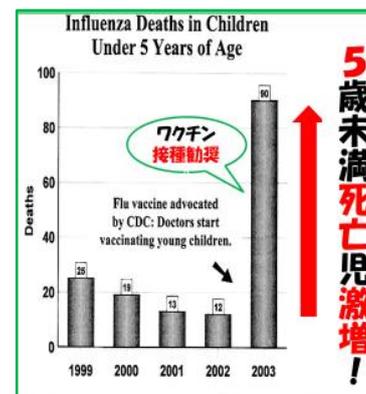


★ ワクチンは、接種するほど感染しやすく、重症化しやすい (Vaccine Safety Manualより)

インフルエンザワクチンには「感染防止効果がない」「重症化(肺炎)阻止効果もほとんどない」ことが述べられ、また、ワクチン接種直後の**重篤な副作用・死亡例**が22症例記載されており、やはり、ワクチンは**無効**であるばかりか、かえって**危険**であり、インフルエンザに**感染しやすく**、また**重症化しやすい**という事実が述べられている。

★ ワクチン接種勧奨が死亡率を激増させた (Vaccine Safety Manualより)

右図はアメリカの『5歳未満の幼児のインフルエンザ感染死亡の推移』のグラフに丸山が加筆したものである。ワクチン接種が勧奨される前は、インフルエンザ感染による死亡児数は着実に減ってきていたが(1999年25人→2002年12人に減少)、CDCが、**幼児へのワクチン接種を勧奨**した途端、翌2003年には、インフルエンザ感染による**死亡児数が90人に激増**してしまった。要するに、少なくとも5歳未満の幼児にとっては、インフルエンザワクチンは**無効**であるばかりか、かえって**危険**であり、インフルエンザに**感染しやすく**、また**重症化しやすい**という結果であった。



公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原6丁目8番1号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

<http://www.kenshin-shizuoka.net>

E-mail:info@kenshin-shizuoka.net

新型インフルエンザ（2009年）に対するワクチン接種も大失敗？

2009年の新型インフルエンザ（A/H1N1:新型の豚インフルエンザ）騒動の時、世界的に 誇大に恐怖感が煽られたため、**急遽**、季節性インフルエンザ**ワクチン**の**接種**が開始された。ところが、**ワクチンを接種した人の間で、インフルエンザ感染が拡大**してしまった。そのため、右表の如く、海外では医療関係者による『**ワクチン接種反対運動**』が展開された。また、政府による『**接種禁止措置**』が取られた。このとき、実際には、この亜型のインフルエンザAに罹ったことのないはずの**高齢者では殆んど発症せず**、逆に**ワクチンを接種した若い人・小児に感染が拡大し、重症化**し易かったという現象が起こっていた。

2009年新型インフルエンザ騒動の時

2009年7月 **アメリカ** ニューヨーク州の**看護師**団体がワクチン接種**反対**を表明

2009.11.02 **スイス** 妊婦、少年少女、老人に対するワクチン接種・**許可せず**。

2009.11.15 **ポーランド** ワクチン接種**認めず**。

2010.01.04 **フランス** ワクチン接種**禁止**。
ワクチン接種で、インフルエンザ感染が増大し、海外では、反対運動、接種禁止措置が取られたのに、**日本は接種を続けた**。

現行ワクチンには**潜在的な欠陥**がある（詳細は 本通信 No.58 2017年3月 参照）

2011年11月、**オランダ**のエラスムス・メディカル・センターが発表した**ワクチン学**の研究結果について見てみよう。

Annual Vaccination against Influenza Virus Hampers Development of Virus-Specific CD8⁺ T Cell Immunity in Children¹

ウイルス学雑誌 2011年11月 85(22) 11995-12000
インフルエンザに対する年次ワクチン接種は小児におけるウイルス特異的CD8陽性細胞の免疫の発現を阻害する

この研究の結論は『**子どもに定期的にインフルエンザワクチンを接種すると、インフルエンザと闘う免疫システムが悪化する**』であった。この研究は、毎年ワクチン接種をしている**嚢胞性線維症**という疾患を持つ14人の子ども（実験群）とワクチン非接種の27人の健康な子ども（対照群）について、インフルエンザAウイルスに対する**特異的細胞性免疫（T細胞系）**および**液性免疫（B細胞系）**を比較したものであった。基本的に**5歳以下**の年齢層では、**細胞性免疫の発達は不十分**で、この時期に**ワクチン接種のみで抗体を誘導**すると、**交差免疫の成立が抑制**され、インフルエンザに自然感染した子どもと比較して、**亜型のインフルエンザAウイルスの感染に対し、重症化し易い**可能性がある、という仮説が成立した。先に述べた2009年の新型インフルエンザの流行時に、小児での発症が多かったことも、季節性インフルエンザワクチンを打った人の方に**重症化が多く認められた**ことも、この論文の仮説で説明が可能である。**現代の子ども達の免疫は自然感染**によらず、**ワクチンのみ**で誘導される場合がほとんどで、亜型（サブタイプ）のウイルスに対する**免疫反応が弱い**と考えられた。結論は、**子どもにおいては「非接種の方が免疫反応がより強く、インフルエンザから身を守る機能がより強い」ということである**。この研究のリーダーRogier Bodewes氏は「**インフルエンザワクチンには潜在的な欠陥があり、これまで正当に検討されてこなかった。これについては公の場できちんと議論されるべきだ**。」と主張していたが、2020年の現在、未だ議論されることなく、世界中で**無効・危険なワクチン**が接種されている。

現行のインフルエンザ**ワクチン**には**潜在的な欠陥**がある（Rogier Bodewes氏）
【結論】

- * 子供に対する**ワクチンの定期接種**は、インフルエンザと闘う**免疫システムを悪化**させる。
- * ワクチン**未接種**の子供たちの方が、**免疫反応がより強く**、今後世界的流行が懸念されるインフルエンザに対しても、**身を守る機能が、より強い**ことが判明した。

年次インフルエンザワクチン接種による**免疫システムの悪化**とは

細胞性免疫 阻害される 細胞傷害性T細胞などが動かない	液性免疫 保たれる B細胞が抗体をつくるのだが…
--	---------------------------------------

銀行強盗に例えるならば…

パトカーは故障したまま
で出動できず、犯人は逃
げてしまった

緊急連絡ボタンは作動し
犯人の車にカラーボール
を投げつけて印をつけたが

★「**インフルエンザワクチンは無効**」とメディアが報じる（2013年 **アメリカ、カナダ**）

CDC（米国疾病予防管理センター）やFDA（米国食品医薬品局）の公式見解は「ワクチン株ウイルスと流行しているウイルスが完全に一致した場合にのみ（極めて稀）効果が期待できるが、一致しないのが普通なので**ワクチンはほとんど無効**」また、CDCは「年間 70~80 例の**ギラン・バレー症候群**が、インフルエンザ**ワクチン**により**引き起こされている**」と認めていた。カナダのCTVニュース（右図）、アメリカの**CNN**ニュースや**CBS**ニュースでも、「**H1型ワクチン**を**接種**すると**季節性インフルエンザの感染が倍増する**」「**ギラン・バレー症候群が増加する**」などと報じていた。



おわりに

2回にわたり「インフルエンザワクチンの危険性・無効性」についてお話した。インフルエンザワクチンは「打てば打つほど、交差反応が**抑制**、細胞性免疫が**阻害**され、**感染しやすく**、より**重症化しやす**い」ことを理解して頂けたであろうか。「**新型コロナ**」に対しても、「**ワクチン開発**」に期待するのではなく、**重症化しないための『生活習慣の改善』**『**非特異的免疫・細胞性免疫の増強**』に努めて頂きたいものと願っています。